

博物館の山にすむ動物とつどうヒトたち

福井市自然史博物館骨格標本作製ボランティア・鈴木聡（福井市自然史博物館）

1. 博物館の山にすむ動物

はじめに

福井市自然史博物館は、福井市の中心市街地の南にある孤立丘陵「足羽山」の上に建つ博物館である。1952年に開館してから現在までの63年間、足羽山を中心に福井県の自然に関する資料を収集し、調査研究、普及活動を行ってきた。

2013年から、足羽山の生態系の実態を明らかにするために5カ年計画で「足羽山総合調査」を実施している。今回、3年間行った哺乳類の生息調査の成果を紹介する。

調査方法

哺乳類の生息状況を明らかにするために、自動撮影カメラおよびトラップを用いた調査を行った。

① 自動撮影カメラを使った調査

予備調査：2013年9月～2014年8月

足羽山の環境が異なる10地点に1～2週間自動撮影カメラを設置し、撮影頻度、種数を比較し、本調査でカメラを設置する場所を選定。

本調査：2014年8月～2015年8月

撮影頻度と撮影種数がともに最大であった竹林に1年間カメラを設置。

② アカネズミの捕獲調査

調査期間：2014年9月～11月

足羽山の環境が異なる6地点にシャーマントラップを設置し、アカネズミの捕獲を行った。

③ 食肉類の捕獲調査

調査期間：2015年6月～2016年1月

かごわなで食肉類（イタチ類、タヌキ、アライグマなど）を捕獲。

④ 目視・痕跡

調査期間：2013年4月～2016年1月（不定期）

捕獲調査中などに目撃した個体や痕跡（糞、足跡、食痕）を記録。

結果

15種の哺乳類が確認された。このうち、2008年に出版された福井市自然史博物館展示ガイド（以下、展示ガイド）に掲載されていないものは、在来種のイノシシおよびニホンザルと外来種のシベリアイタチおよびアライグマの計4種である。一方、今回の調査では展示ガイドに掲載されているニホンリスの生息を確認できなかった。

まとめと考察

足羽山には、キツネ、ニホンテンなどを除き里山で見られる哺乳類がほとんど生息していることが分かった。しかし、ニホンリスが絶滅した可能性がある。また、外来種（アライグマ、ハクビシン、シベリアイタチ）が生息しており、これらが在来種に及ぼす影響は現時点では不明である。今後、足羽山の里山としての生態系機能を維持するためには、多様な環境（草地、落葉広葉樹林、照葉樹林など）の維持のほか、外来種が在来種に及ぼす影響を明らかにして対策を施す必要があるだろう。

2. 博物館につどうヒトたちー福井市自然史博物館骨格標本作製ボランティア（骨部）

はじめに

福井市自然史博物館では、2005年よりボランティアを募集し、活動を行っている。現在は、昆虫、植物、クラフト、骨格標本作製の4分野で活動が行われている。

骨格標本作製ボランティア（通称：骨部）では、これまでにニホンアナグマ、ニホンザル、オオミズナギドリ、ニホンジカなどの交連骨格標本を作り、一部は大阪市立自然史博物館で開催されたホネホネサミットにも出展した。今回は、鈴木が担当した2013年4月から3年間の活動を標本展示も交えて紹介する。

活動内容

① オサガメの解体（2013年12月4日）

福井県高浜町で打ち上がったオサガメの死体を梨木学芸員（当時）と骨部の部員が回収。福井市自然史博物館に運び、解体した。



② ニホンジカの骨格標本作製（2014年3月～7月）

鈴木が担当した第78回特別展「どうやって決まるの？動物の大きさーミジンコからクジラまでー」（2014年7月19日～9月23日）でニホンジカの大きさが環境によって変わることを伝えるため、北海道、本州、屋久島産のニホンジカの交連骨格標本作製し、展示した。



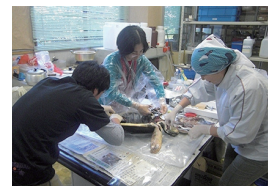
③ 第3回ホネホネサミット（2014年10月12日）

第1回、2回に引き続き、骨部は3回目も出展した。今回は、特別展で展示したニホンジカの骨格標本3体のほか、カメの骨格標本などを展示した。また、動物の足型作り体験を実施した。



④ アオウミガメの標本作り（2014年10月25日）

福井市自然史博物館の動物資料保存用の冷凍庫には、2012年に福井の海で大量漂着したウミガメが保管されている。この日は、冷凍庫のスペースを少しでも空けるためにアオウミガメ2体を解剖し、標本化作業を行った。



⑤ ニホンカモシカの解体（2015年1月24日）

福井市内で保護され、動物園での治療の甲斐なく亡くなってしまった特別天然記念物のニホンカモシカが博物館に運ばれてきた。屋内に運びこむのが困難なため、まず屋外で解体作業を行った。



⑥ 哺乳類の皮標本作り（2015年8月12日）

イタチ類、ニホンテン、アライグマなどの皮標本作製した。特に冬に死亡した個体は、皮下脂肪をたくさん蓄えているため、脂取りが大変であった。

